Ⅵ. コミュニティ・ネットワーク形成支援

大学教育に関する改革や改善を進めていく際には、国内外の新しい施策や学術的な動向、それに伴う他の大学や学部の実践的な取り組みについて情報収集する必要があります。その上で、必要な事項を、京都大学全体や各部局の教育改革・改善の取り組みに反映させなければなりません。

本センターでは、このような情報収集の機会を作り、そこからコミュニティ・ネットワーク形成を図るべく、「あさがおメーリングリスト」「大学教育研究フォーラム」の2つの仕組みを活用してきました。今年度は学内向けに、「あじさいメーリングリスト」も立ち上げました。

1. あさがおメーリングリスト、あじさいメーリングリスト

「あさがおML」は、本センターが、2003年より19年にわたって提供しているサービスです。

本センターからの大学教育に関する案内が全国の関係者に配信されるとともに、登録ユーザーからも各種イベント等の案内が配信されるので、今どのような施策や取り組みに全国の関心が向けられているかという動向を把握することができます。

このサービスは長らく大学生協事業連合に委託してきましたが、生協の事業終了により、2019年9月以降、メール配信サービスblastmailを使っています。なお、旧システムのアーカイブは、センターのウェブサイト（http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/）からダウンロードできます。

2022年1月現在で、ユーザー登録数は6,895名（2015年3,429名、2016年4,192名、2017年4,836名、2018年5,395名、2019年5,952名、2020年6,629名）、投稿・配信数は1,837件（2015年621件、2016年944件、2017年975件、2018年1,270件、2019年1,119件、2020年1,047件）で、ユーザー登録数、投稿・配信数ともに増加しました。最近の傾向として、企業からの投稿が増えていますが、「高等教育に関連しない、あるいは、商業性が高い（例えば、企業主催の有料の研修など）と判断される」ものは配信しないという方針を取っており（以下のウェブサイトで明記）、これに抵触して配信していないものも週に数件ほどあります。

- あさがおML　http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/asagao/

「あじさいML」は、京都大学の各部局や教職員による教育活動・教育支援活動に関する最新の情報を発信・共有するためのメーリングリストです。例えば、各部局のFD活動、特色ある教育的な取り組み、教育関連のイベント、授業のティップスなどについて、情報を得たり発信したりすることができます。2021年7月より運用を始めましたが、まだユーザー登録数、配信数ともに少ないので、今後、講習会などの機会をとらえて周知を図っていきます。

- あじさいML　http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/ajisai/

2. 大学教育研究フォーラム

大学教育研究フォーラムは、本センターが1994年の設立以来開催してきた、大学教育改革や改善に関する施策や実践が報告される国内最大級のフォーラムです。2021年度で第28回を迎えます。

大学教育研究フォーラムは、①特別講演（招待講演）、②シンポジウム、③個人研究発表（口頭発表・ポスター発表）、④参加者企画セッション、を基本プログラムとしており、年によって小さな追加・変更を行っています。

(1)第27回大学教育研究フォーラムの概要

2022年1月現在、2021年度のフォーラムはまだ開催されていませんので、ここでは2020年度の第27回大学教育研究フォーラムの概要をご報告します。2020年度は、2021年3月17～18日に、以下のプログラムで開催しました。新型コロナウイルス感染症の感染状況が見通せないなか、2019年度に引き続きオンライン開催となりました。なお、2020年度からは、会計の独立性を保つために、大学教育研究フォーラム実行委員会主催とし、本センターは共催で入っています。

①シンポジウム「大学教育におけるニューノーマルを展望する」

コロナ禍の中での大学教育の状況を踏まえ、困難な時代を乗り越えた先にあるべき大学教育の新たな姿について考えることをめざして、Zoomウェビナーでシンポジウム「大学教育におけるニューノーマルを展望する」を開催しました。

田中優子 法政大学総長、吉見俊哉 東京大学大学院情報学環教授、小林浩 リクルート進学総研所長（カレッジマネジメント編集長）をお招きし、飯吉透センター長も加わって、講演とパネルディスカッションを行いました。

講演では、田中総長から、江戸期の学びを手がかりとした「教えることから学ぶことへ」、吉見教授から、パンデミックとグローバル化・大学の人類史を振り返る「第三世代の大学とは何か」、小林所長から、学修者本位の高・大・社接続に向けた「学生支援のニューノーマル」、飯吉透センター長から、中央教育審議会での議論と米国の状況を踏まえての「次世代高等教育における教育の質保証を考える」と題する講演がありました。その後のパネルディスカッションでは、大学の時間と空間の組み替え、個人とコミュニティの関係の変化、デジタルとフィジカルの相互補完などのテーマが議論されました。また、オンラインホワイトボードツールMiroを使った参加者とのインタラクションも行いました。

②個人研究発表（157件）

ポスター発表をなくして口頭発表のみとし、Zoomミーティングで実施しました。157件の研究発表があり、やはり、オンライン授業関係の発表の多さが目立ちました。

※2015年度174件、2016年度195件、2017年度186件、2018年度232件、2019年度197件

③参加者企画セッション（14件）

ポスター発表をなくした分、例年は2日目のみに設けていた参加者企画セッションを、今回は両日とも設定しました。「バーチャルの力でオンライン授業の限界を突破する」、「汎用的能力の再考―ミネルヴァ・モデルの批判的検討を通して―」など14件が実施されました。

※2015年度11件、2016年度14件、2017年度14件、2018年度13件、2019年度7件

全国から大学教職員、企業関係者などの593名の参加者があり、盛会のうちに終了しました。

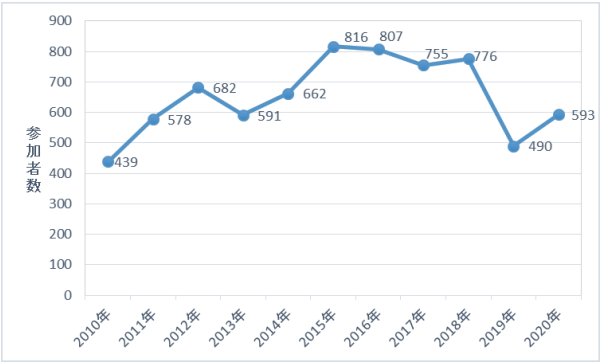
(2) 近年の傾向と今後の課題

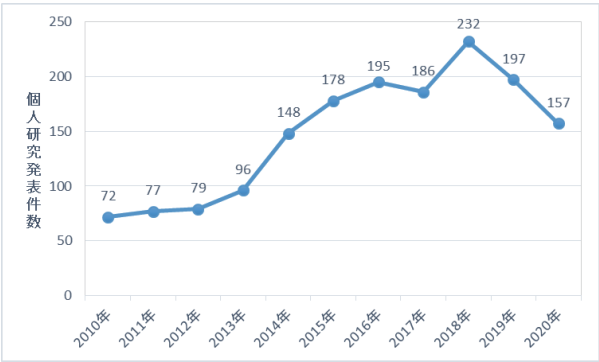
2010年度以降の参加者数・個人研究発表件数の推移を表したのが下のグラフです。参加者数は、コロナ禍の影響で急遽オンライン開催にふみきった2019年度に大きく減少し、そこからは100名近く増加したものの、対面開催のときほどは集めることができていません。当日参加ができなくなったこと、3月に京大に集まるという魅力が失われたことが要因かと思われます。

また、個人研究発表件数は、2019年度よりもさらに40件ほど減少しました。2019年度は申し込み時点では対面開催だったのが2020年度は最初からオンライン開催と決まっていたこと、ポスター発表をなくしたことが影響していると考えられます。

現状ではなお、対面開催に戻すのは難しく、2021年度もオンライン開催が決定していますが、今後、プログラムや運営方法の改善を重ねて、さらに魅力的なフォーラムになるよう工夫していきます。

● 大学教育研究フォーラム　http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/forum/





参加者数・個人研究発表件数の推移（2010-2020年度）

（松下 佳代）